

令和5年

松前町議会

新病院建設基本計画に関する調査特別委員会
(第1回)

会議録

自 令和5年 9月 8日

至 令和5年 9月 8日

松前町議会

各 位

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上原稿校正は初校しかできなく、誤字、脱字等がありますことを深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、御了承のうえ御判読いただきたくお願い致します。

新病院建設基本計画に関する調査特別委員会委員長 福 原 英 夫

新病院建設基本計画に関する調査特別委員会 (第1回)

令和5年 9月 8日(金曜日)

◎出席委員(10名)

委員	長	福原英夫君	副委員	長	齋木良太君
委員		勇谷鷹宇君	委員		三浦昭雄君
委員		飯田幸仁君	委員		沼山雄平君
委員		近江武君	委員		梶谷康介君
委員		斉藤勝君	委員		堺繁光君

◎欠席委員(0名)

◎職務のため出席した議員

議長 伊藤幸司君

◎出席説明員

町長	石山英雄君	副町長	若佐智弘君
病院事務局長	白川義則君	病院事務局次長	斉藤広文君
政策財政課長	五十嵐愛之君	政策財政課長補佐	佐藤朋英君
政策財政課財政係長	工藤拓也君		

◎職務のため議場に出席した事務局職員

議会事務局長	鍋島孝明君	議会事務局次長	佐藤巧君
議会事務局主任	三上大輔君		

(開会 午前 9時59分)

○福原委員長 おはようございます。

ただ今から、新病院建設基本計画に関する調査特別委員会を開催致します。

この特別委員会は、今般、新病院建設に係る基本計画の策定が予定されていることから、当該計画について調査を行うため、令和5年7月3日開催の第2回臨時会において設置されたところであります。

松前病院は、町民の健康と生命を守る大きな役割を果たしている重要な医療機関であることから、新病院建設に係る基本計画について、必要な調査を行い、今後の町民サービスや医療環境、更に町の財政負担などを含め、内容を総合的に検証し、町の将来の医療を担う基本計画の策定にあたり、必要な意見を申し述べ、提出してまいりたいと考えているところであります。

本日の委員会は第1回目でありますので、町長からご挨拶があります。

町長、挨拶をお願いします。

○石山町長 おはようございます。

福原新病院建設基本計画に関する調査特別委員会委員長のご配慮によりまして、ご挨拶をする機会をいただきまして、ありがとうございます。

改選後、第1回目の委員会でございます。町立松前病院は建設後、44年が経過しております。施設の老朽化は著しく、設備、患者の療養環境、更にはICT化や医療機器の整備に影響を与えているところであります。

また、地域包括ケアシステム構築への対応や、コロナウイルス感染症などへの対応などを踏まえ、新病院の建設は喫緊の課題であるというふうに思います。現在まで新病院建設に係る基本構想を策定し、副町長をトップとした新病院建設検討委員会で基本構想や町民からパブリックコメントをいただくなど、進めてきております。基本計画の策定の準備をしている最中でございます。建設資材、更には薬剤などの価格高騰や、電気などエネルギー料金の高騰、これらの病院会計のみならず、松前町全体、一般会計含めまして、当初想定した建設費と比較すると大きな差が生じてきております。正しく、状況が大きく変わってきているところであります。

この間、新病院建設検討委員会でもいろいろ議論を交わされているようでもあります。なかなか前に進まないもどかしさを感じておりますが、ここは一度立ち止まって、今後の病院経営の分析や、松前町全体の財政推計など、冷静な判断をする時期かと思っております。町民の皆さんに、きちんと説明できる環境づくりを整えることが最優先だというふうに思っているところであります。

本日この後、基本計画案作成に係る検討状況、更には事業費及び建設候補地において現状を説明させていただきますので、よろしくお願いを申し上げたいというふうに思います。病院は、町民が健康で安心した生活を送るための重要な医療機関でございます。安心安全な地域医療を提供し続ける環境づくりをすることが、私達の責務だというふうに思っております。本調査特別委員会のご意見、ご助言を参考にし、更には町民の皆さんのご理解を得て、松前町に相応しい町立松前病院の建設に取り組んでまいりたいと思っております。委員の皆様にはご苦勞をおかけしますが、よろしくお願ひ申し上げまして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

○福原委員長 始めに、審査方法について、お諮り致します。

本日は、正副委員長において提出させた資料が配付されておりますので、これらの資料の説明を受け、質疑を行いたいと思っておりますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○福原委員長 ご異議なしと認め、そのように進めます。

直ちに会議を開きます。

提出されている資料であります。資料1、新病院建設基本計画(案)概要版について、資料2、新病院建設基本計画(案)について、資料3、病院事業財政推計(R6～R15)について、資料4、一般会計財政推計(R6～R15)について、4点でございます。

会議の進め方について、お諮り致します。

資料1から資料4まで、一括議題として進めてまいりたいと考えておりますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○福原委員長 ご異議なしと認め、そのように進めてまいります。提出されている資料についての説明を求めます。

始めに資料1、新病院建設基本計画(案)概要版について、資料2、新病院建設基本計画(案)について、以上2件について一括して説明願います。病院事務局長。

○白川局長 おはようございます。

それでは、私の方から説明をするんですけども、説明をする前に、事前に配布しておりました資料について、若干訂正がございましたので、ご説明申し上げます。

資料1の概要版の関係です。タブレットに配布しているところと思っておりますけれども、新病院基本計画(案)概要版資料1になります。最初のページになります。

その1ページにございます、中段に記載あります(2)新病院の適正規模という表題があると思っておりますけれども、その文言の中で、「新病院において整備すべき病床規模について、適将来人口推計から」という文言になっておりますけれども、こちらの「適」を削除致したいと思っております。

もう1点あります、申し訳ございませんけれども、今度はタブレット上の概要版の5ページ目、表題が事業収支シミュレーションという表題がついている5ページ目になります。その一番下段にあります、一番下にあります2. 建設事業費・財源の試算という表記をされておりますけれども、こちらは重複記載となっておりますので、今言った2. 建設事業費・財源の試算は、削除させていただきます。以上が訂正箇所となります、大変申し訳ございませんでした。

それでは、基本計画(案)について、ご説明させていただきます。なお、今回出した基本計画(案)につきましても、院内の建設準備委員会、また役場の副町長を委員長とする建設検討委員会等の議論を経まして、修正すべきところ、訂正すべきところを直したうえでの現在の最終版の計画案となっているところを、ご了承願いたいと思っております。

なお、資料2の新病院基本計画(案)も配布してるところですけれども、本文は35ページほどございますことから、資料1の概要版にてご説明させていただくことをご了承願いたいと思っております。

それでは、資料の1、概要版の1ページをご覧願いたいと思っております。新病院の基本方針について、記載をしております。新病院の基本的な考え方として記載されております12項目、下段にあります12項目を基本として、目指すべき姿の実現に向けて取り組んでまいりますということになります。

次に、新病院において整備すべき病床規模についてです。将来人口推計から入院患者数が減少傾向であること、松前町内で対応すべき患者の一部が、町外の医療機関を受診している状況などを加味し、整備コストとのバランスを考慮しながら、将来にわたって安定し

た運営を維持できる規模等を勘案し、病床数を60床としているところです。

診療科目、病床機能としては、現在の稼働病床である一般病床48床、地域包括ケア病床12床の合計60床で一病棟構成とします。診療科目等につきましては、現状のまま内科、外科、整形外科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、人工透析とします。ということになっております。

次に、2ページ目をご覧くださいと思います。施設整備の基本的な考え方についてです。6点ほどございます。まず、1点目として患者中心の施設整備、二つ目として災害に強い施設整備、三つ目として経済性を考慮した施設整備、次に、機能的で働きやすい施設整備、変化に対応できる施設整備、感染症に対応した施設整備の6項目としているところです。

新病院の概要と現病院の比較についてです。住所は大磯から建石のイエローグローブ横の町有地が予定地となっております。病床数、診療科目等は先ほど申しましたとおり、現病院と同じような形になります。

建物構成、建物規模は地上2階、地下1階の鉄筋コンクリート造の3階建て、延べ床面積で6千76平米となります。駐車場は国道側に患者用60台、海側に職員用80台となる予定です。

その他で、医師公宅5棟、それから看護師棟宿舎1棟10戸、院内保育所1棟を新たに建設する予定となっております。

次、3ページをご覧くださいと思います。整備手法についてです。病院が抱える特徴、課題に応じた手法の選定が必要であり、多岐にわたる意見や要望の集約、患者やスタッフの動線の整理等、十分な与条件の整理が必要となることから、各段階で履行状況を確認するため、求める品質を確保しやすいことから、基本設計、実施設計、建設工事を分離発注する方式とします。

医療機器等に係る基本方針についてです。医療機器整備の基本方針、医療情報システム運用に係る基本方針、医療情報システムの整備方針は、記載のとおりとなっております。

次に、4ページ目をご覧ください。整備の方針についてです。患者の療養環境を重視した施設整備、全ての職員にとって安全安心で働きやすい施設整備に留意するとともに、整備後の健全な経営による医療の持続性に重点を置いた経済性とのバランスを図る計画とします。

次に、敷地の概要等でございます。土地の情報についてです。記載されておりますとおりなんですけれども、計画地としては、松前町字建石59番地の1、これ代表地番になります。敷地面積は、約1万3千平米となっております。用途地域等の区分は特にございませぬ。防災関連です、津波災害警戒区域、土砂災害警戒区域の該当はありません。それから接道・道路幅員については、一般国道228号、幅員9メートルとなります。

次に、5ページ目をご覧くださいと思います。新病院における想定規模についてです。想定規模は、各部門ごとにヒヤリングを2回ほど行い、必要面積を積算したところ、延べ床面積で6千76平米としていますが、今後基本設計及び実施設計において効率的な空間を検討し、最終算定を行います。

建設事業費・財源の試算についてです。延べ床面積6千76平米と想定し、参考として積算した概算事業費及び整備財源については、記載のとおりとなっております。なお、概算事業費につきましては、あくまでも基本計画策定時点での想定金額となり、今後の社会情勢等により、発注段階において変動する可能性があり、事業費を確定するもので

はございません。

また、整備財源については、病院事業債、過疎対策事業債の他、活用できる国や北海道の補助金を調整して、財源の確保に向けた検討を行い、病院事業における実質負担の抑制に努めてまいりますということです。

次に、6ページ目をご覧願いたいと思います。収支のシミュレーションにつきましては、後ほど資料3にて、この後斉藤次長よりご説明をさせていただきます。

次に、7ページをご覧願います。新病院建設スケジュールについてです。現時点での想定スケジュールは、記載のとおりとなっておりますが、本年11月の総務省ヒヤリングを経て、5年後の開院を目指すスケジュールとなっております。

以上が、私の方からのご説明の、新病院基本計画(案)概要版についての説明となります。よろしくご審議のほどお願い致します。

○福原委員長 次に、資料3、病院事業財政推計（R6～R15）について説明をお願いします。病院事務局次長。

○斉藤次長 おはようございます。

それでは、私の方から資料3、病院事業財政推計（R6～R15）についてご説明致します。

財政推計につきましては、施設規模6千76平方メートル、建設事業費約55億円の想定を踏まえ、令和6年度から令和15年度までの10年間として作成しております。推計にあたり、収入では入院収益及び外来収益につきましては、社人研人口推計を基に入院及び外来患者数を算出して、影響額を反映させております。支出では、給与費につきまして職員の退職等に伴う補充を行う形で推計しております。また、新病院建設に係る経費につきましては、新病院基本計画(案)33ページの概算事業費及び35ページの新病院建設スケジュールにより、算出しております。

今回行いました推計につきまして、人口減少に伴い、収益が減少する一方、給与費がほぼ横ばいとなる見込みで、令和15年度では、医業収益が給与費を下回る見込みとなっております。また、収益的収支に係ります新病院建設に係る経費としまして、令和6年度において基本計画、ボーリング調査の費用が約4千800万、令和9年度病院建設後の患者等の移転費用に約2千900万、令和10年度において、病院解体に係る除却費、これが約1億円、新病院建設に係ります減価償却費が令和10年度から、約1億3千万増加する見込みでございます。結果、表中段の収益的収支純損失が、各年度におきまして、約4千500万円から2億8千700万円の赤字となる見込みとなっております。

病院経営の健全化が、推計の結果なんですけども、病院経営の健全化が急務となっております。職員の採用計画や配置の見直し等による人件費の抑制などの経費の削減や、診療報酬の見直し、人口減少に伴う病床機能転換の検討を行い、収益の確保を図るなど、病院経営の健全化に向けた取り組みを行うとともに、新病院の施設規模や建築方法の再検討など、事業費の圧縮が必要な状況となっております。また、一般会計におきましても、病院に対する操出基準の見直し等に係る支援を検討していただいている状況となっております。

以上が資料3、病院事業財政推計（R6～R15）の説明とさせていただきます。よろしくお願い致します。

○福原委員長 次に、資料4、一般会計財政推計（R6～R15）について、説明をお願いします。政策財政課長。

○五十嵐課長 おはようございます。

それでは、私の方から資料4、一般会計財政推計（R6～R15）について、説明させ

ていただきます。

この推計は、当課の財政係にて予算編成時に作成している財政推計に、先ほど病院事務局から説明がありました、新病院の事業収支シュミレーションを加え、令和15年度までの10年間とし、新病院建設検討委員会の検討資料として作成したものを提出させていただいております。なお、この推計には、大型風車の2期工事、洋上風力における固定資産税、償却資産になります、及び脱炭素再生可能エネルギー先行地域にて採択された場合に交付される交付金等は、現時点において額が未確定であるため、計上しておりませんのでご理解願います。まず、新病院の建設は、事業費の2分の1を病院事業において病院事業債を発行し償還、残りの2分の1は、一般会計が過疎対策事業債を発行し、発行した額を補助金として病院事業に補助し、その元利償還金は一般会計が償還することとなっております。

それでは、資料の上段の表、歳入区分の21、町債のうち病院建設に係る過疎債の欄をご覧ください。令和7年度です。実施設計分7千680万円、令和9年度建設費等分で22億5千820万円の借り入れを行うこととなっております、それぞれ下段の歳出区分の5、補助費等病院事業会計補助金にて当該借り入れしました起債を、全額補助金として病院事業会計に支出することとなっております。

この借り入れに係る公債費の償還が令和8年度より始まり、実施設計は令和10年度、医療機器は令和11年度、建設費等は令和15年度より元金の償還が始まる見込みとなり、建設費等については、償還終了となる令和39年度までの25年間、毎年建設に係る分を1億円程度支出していかなければならないこととなります。

次に、下段の歳出の表の下側、歳出合計の次にあります財政調整基金残高でございます、黄色に着色している部分です。令和6年度決算見込みにおける財政調整基金の残高は、17億2千355万6千円の見込みであります、元金償還の始まる令和11年度以降は、約1億3千万、令和15年度には約3億円を財政調整基金より繰り入れすることとなり、令和15年度における残高は、5億5千644万円となる見込みであることから厳しい財政運営となることが想定されております。

また、先ほど病院齊藤次長の方から申しました、現在見直しの検討をしている操出基準後の額で、病院会計繰り出しを行った場合、令和15年度決算見込みにおいて、財政調整基金が底をつく状況となり、令和15年度当初予算編成が厳しい状況となることが想定されております。操出基準の見直しについては、現在普通交付税及び特別交付税で算定されている額を全額補助金として病院事業へ支出しておりますが、国から示されている公営企業に対する操出基準を基に経費の追加や負担割合の見直し等を行うことで、病院事業への補助、繰り出しを手厚くしようとするものを検討してございます。

その他にも操出基準を見直すことで病院事業で償還していく、新病院建設に係る病院事業債の2分の1を補助金で支出することとなるため、一般会計で償還していく過疎対策事業債分と合わせて、建設費に係る借入起債額の合計の75%が一般会計の負担となることから、いずれにしても一般会計も財政健全化に向け、より一層の行財政改革が必要な状況であると考えております。

以上で、資料4、一般会計財政推計（R6～R15）についての説明とさせていただきます。よろしく願い申し上げます。

○福原委員長 説明が終わりましたので、これよりこの4件について、一括質疑を行います。質疑ございませんか。

梶谷委員。

○梶谷委員 今更こんな質問も、非常に悩んだんですけどもね、未だにこの病院の建てる場所、建石、大磯から建石に移るっていう形がね、非常に不明確、これは私自身の受け止め方なんですよ。

委員会には、この場所の決定権ないわけですよ、はっきり言って。最終的にはやっぱり委員会で議論をして、建石がどうだ、大磯はどうだって議論をして、それを基にして病院なり、あるいは町長部局なり、最終的には町長が決断されることなんですけども、確認したいことはね、町長、建石で決定と受け止めていいんでしょう。未だに場所がね、町民から建石なのか、大磯なのかと。

私とすれば、過去の委員会でも、委員会としてどうなんだっていう話した経緯があります。その時には委員長は、まあ、委員の総意を得て、やっぱり大磯という検討をつけましたと、そういう判断いただいていますけども、町長が最終的に大磯から建石に移転しましたっていう、はっきりした答弁いただけてないもんですからね。それ、一番最初に町長のご答弁をいただきたいなと思っております。お願い致します。

○福原委員長 町長。

○石山町長 建設場所についてのお尋ねでございます。いろいろと改選前の委員会の中でも議論をいただきました。委員長からは、委員会としては建石というふうなご発言あったように記憶しております。

あくまでも今、梶谷委員おっしゃるとおり、提案者は町長でありますので、この委員会の議論含めまして、決定はしたいというふうに思っておりますが、現状でまだ時期早いなというふうな気はしております、表現するのはですね。ですから、委員会の議論踏まえまして、最終的に決定をさせていただきたいという答弁に代えさせていただきたいというふうに思います。

○福原委員長 他にありませんか。

齋木委員。

○齋木委員 いろいろ聞きたい思いなどあるんですけども、初めて今回出席させていただきました。それで、基本計画案などいろいろ見させていただいてるんですけども、まず最初にちょっと確認をしたいのは、病院の職員がしっかり一丸となって、この新病院の建設に気持ちを揃えて迎えているのか。まず、そこを聞きたいということが1点。

もう一つ、ヒヤリングを2回でしたか、各部署行って、この病院の建設案、多分これくらいの面積がほしいであるとか、この場所にしてほしいとかいろいろ要望を出してつくってるんだと思うんですけども、その要望は、いつの時点を見越しての要望なのか。現在必要の要望を言ってるのか、それとも建った時点での要望なのか、そこをちょっと確認させてください。

○福原委員長 病院事務局長。

○白川局長 ただ今、齋木委員からご質問があった、まず病院の職員について、新しい新病院の建設建設についての理解度っていったらいいんですけども、その辺の関係でございます。基本的には、先ほども言いましたけど、院内での検討委員会、これは役場の建設検討委員会入る前に必ず開催をして、職員の皆様には病院を建てることに対してのご意見等をいただいて、職員の方からは今の現状を考えると、もう45年ほど経ってる建物で、非常に患者さんにも使い勝手の悪い、職員、医師も働きづらいという環境で今現在お仕事をされてるわけでございますので、そこら辺は職員一人一人がきちっと新しい病院が必要であるという認識であると、私は全ての職員がそういうふうな認識を持っていると、私は思っております。

2点目のヒヤリング、2回開催しているわけでございますけれども、あくまでもこれは新しい病院、今の現状を踏まえ、現状でどのような課題があるのかも踏まえつつ、新しい病院に向けて、これくらいのスペースが必要であるとか、こういう部屋が必要であるとかという意見をヒヤリングをして、概算事業費を算出するための平面図をおこしております。以上です。

○福原委員長 齋木委員。

○齋木委員 現状の要望で概算を出してるっていうことでしたので、この財政の方、収益とかは人口推計でこうなるっていうお話ありましたけれども、その要望は、そういう患者数の減少は見越してないっていうことでよろしいでしょうか。

○福原委員長 病院事務局長。

○白川局長 将来人口の関係ですとか、そこら辺の基本計画、基本構想、この前に基本構想というのもつくっております。経営改革強化プランというのもつくっております。そちらと全てリンクするところですので、そこら辺も職員の方々には、経営が厳しくなるので、60床ではスタート致しますけれども、人口減少、そういうことを踏まえて病床機能の変換ですとか、そういう話も院長の方からはさせてもらってますので、そういうことを踏まえて、あくまでもヒヤリング、各部署ごとにやっているヒヤリングだったものですから、正直なところ各部署の意見がほぼ通ってる形の今回は図面ってことなるので、病院全体を考えたそういう建て替えてっていうような考え方には、全ての職員は至ってないところも多々あるのかなと、私個人的には思っておりますけれども、それはどうしようもない、今更どうしようもないことだと私思ってるので、今後、先ほども説明したとおり、病院経営っていうのは相当厳しい状況であるってことを、今一度職員に認識をさせながら、また、再検討をして、新しい病院に向けてスタートを切れればいかなというふうに思っております。以上です。

○福原委員長 他にありませんか。

勇谷委員。

○勇谷委員 私、民間が長かったものですから、ちょっと感覚がいまいちわからない、これのPLとかみたいな、こう見てもピンとこないんですよ、赤字、赤字、赤字、赤字、経常のところ、経常のところ赤字、赤字、赤字、赤字、赤字で、こんな収支で、町の一般会計財政でもやっていけませんって言うのに、なんで病院ができるのかなって不思議でしょうがないんですよ。そこはまあ、公の施設の仕組みなんだろうと思いますが、これは、いや、こうなるから、みんなの言うこと聞いてたらこうなるから、やってみたらこうだから、お金がちょっと厳しいんだよねって、そんなことでいいんでしょうか。

これずっと見てると、今齋木委員もおっしゃってましたが、人口が減って、社人研でしたっけ、そのあれから何か推計して云々おっしゃってましたが、人口が減っていくのであれば患者も当然減っていくんでしょうから、そうすると多分職員も、職員っていうのはみんな看護師さんとか、医師はちょっとどうかわかんないですけども、そういうのも減っていくんじゃないですかね。それを見ると、給与が全然ずっと変わってないですよ、これ、何で変わんない。そういう緻密な計算はされてるんだと思うんですが、ちょっと私これ理解に苦しむので、何て言うんでしょう、その辺の細かいところが知りたいんですけども、どうやったらわかりますかね。私、あすこに行ってくれて言われれば行って調べますが、わかれば教えていただければ助かりますが。

○福原委員長 斉藤次長。

○斉藤次長 今、勇谷委員の方から質問ありました財政収支推計の関係だったんですけど

も、委員ご指摘のとおり、人口減少に伴う患者数の減少とかは見込んだ形で推計させていただいております。今、資料として提出してる部分で、令和15年度まで出させていただいてるんですけども、社人研の推計につきましても、令和27年度時点におきまして、令和7年度の予想が、外来患者で462人、令和27年度では188人、入院患者の予想につきましても、令和7年度で78名程度、令和27年につきますと32名程度という形で社人研の推計人口した場合については、予想がされています。

それに伴いまして、収益の方も減少するような形で推計させていただいてるんですけども、人件費につきましても、正職員採用してる形なものですから、正職員の部分につきましても、退職まで給与費が減少しないような形になります。現状推計で会計年度等も見込んではいらるんですけども、今の60床で運営した場合に必要な人数が、現状の部分で必要だという形の推計上で推移させております。なので、退職者が令和15年以降に何名か出てくる形になってくるものですから、令和15年度までのベース上、ほぼ人件費の方の推計につきましても、横ばいとなっております。

推計につきましても、退職した場合に、高い給料の方が退職された場合は、その分若い職員を採用するような計画の下で財政推計をさせていただいております。

病院の建設方法につきましては、一応現在60床で運用してる形だったものですから、60床で積算はさせていただいております。ただ、将来的に60床を切る、入院患者の方が減少した形で60床を切ることも予想されるんですけども、先ほど推計の時に説明させていただいたとおり、病床の転換という形で、現在急性期で対応させていただいてるんですけども、それを回復期、要は回復期という形で病床転換することによって、入院患者の方は現在の部分で32名の予想なんですけども、将来的には、もうちょっと、現在入院患者さんが65歳以上の高齢者がほとんどですので、それを踏まえた形で再度推計、高齢者に限った形で受療率の方を計算した結果、社人研の推計では32名だったんですけども、70名ほど確保できる状況となっております。

仮に60床、今現在の計画で60床で計画してるんですけども、48床にした場合には1億程度、20%の収益が減少する見込みでございますので、更に1億程度収益の方が減少する見込みとなっております。

人件費含め、入院患者の状況含めた形で、今基本計画策定した段階では、60床規模の病院とするのが、という形で運営するのが最良だということで、病院側では考えております。以上です。

○福原委員長 梶谷委員。

○梶谷委員 松前病院の改築に関しては、喫緊の課題って言われてから10年経っています。その間に、病院に対するいろんな質問、私重ねてきました、ようやくここまで来たんですけども、ここに来てね、これからのスケジュール見てもギリギリですよ、はっきり言って。

ですから、これをできるだけ実現させるための委員会の議論っていうのは何だんだと、何をしなければいけないの。こことこことこの件に関して委員会の意見を求めれば、次のこの総務省のヒヤリングに、このスケジュールどおりに行けるっていうものはないんですか。これとこれだけはぜひ委員会で議論してほしい、これこのままでね、委員何かありませんかっていうと、言いたいこと言いますよ、はっきり言って。そうじゃありませんか。またぞろ、このスケジュールどおりに行かないこと始まる。

ですから、進めるために何が必要なのかというポイントを絞ってね、議論して、委員会の意見を求めるっていう形にした方が、私いいと思うんですよ、委員長。

ですから、病院、あるいは町側の考え方として、次の段階に進むためには、今の段階ではこれとこれとこれ、委員会の意見を求めて、それを参考にして町が進める、病院が進めるっていう形にしなければね、同じこと繰り返しますよ、このスケジュールで行きませんよ。その内に資材高騰、人がいない、いろんな社会情勢変わってきます。この計画どおり行かないことは目に見えてます。ですから、本当に気持ちは焦ってる、私は焦ってる。

くどいこと言いますけども、委員長、この委員会で皆さんに意見ありませんかっていう求め方じゃなくって、この委員会で今の時点でどうしてもここだけは委員会の意見をまとめてほしいんだという、進めるうえでのポイントってのはないんですか。これは逆に言って示してもらった方が私は効率的だと思うんですよ。委員長、お諮り願います。

○福原委員長 暫時休憩致します。

(休憩 午前10時47分)

(再開 午前11時04分)

○福原委員長 再開致します。

建設検討委員会の結果について、副町長に答弁願います。

○若佐副町長 庁舎内の改築の検討委員会の方での検討状況を、検討結果をお話させていただきます。

今、各委員からもお話ありましたように、現状出ている病院の経常収支、将来的な10年間の見込みを見た時に、単年度単年度では赤字が大きいと。この分を町財政の方から全て補てんできれば、これはこれで何とかなるんですけど、先ほど政策財政課長からお話がありましたように、町の方の財調も底をついて、30数年返還しなきゃならないものが、10年ほどで底をついてしまうっていうような状況になります。これが続いて行くと赤字債権団体とか、将来的なものがそういう感じになります。

そういうような収支計画を持ちながら、これを総務省のヒヤリングと言っても、北海道の段階でこれは出せるような内容ではないでしょう、これは、道職員からもアドバイスをいただいております。

やはり、庁舎内の検討委員会では、やはりこの収支計画、改善計画をしっかり持って収支の改善に取り組み、先ほど人件費等のお話もありました、将来的な経営改善をしっかり立ち上げ、そしてまた新築する病院の、今は単純に平米70万掛ける6千平米という単純計算ではございますが、はたしてRCしかないのか。例えば1階はRCにして、2階3階は鉄骨づくりとかっていうものでは駄目なのか。皆さんもいろいろ視察に行った部分もありますし、そういう基本的な建て替えのための経費の削減、大きさ、こういうものをもっとやはり精査していくべきだろうと。

ただ、そうなってくると今年度予定している総務省のヒヤリング、これは間に合わないものと、今ここに出せるような計画案をつくっていくのは困難であろうと。それで、先ほど町長のご挨拶の中でお話しましたけれども、一度立ち止まって、そのところを徹底してやはり見直していかなければ、町民に対する説明もできるものではないというのが、庁舎内の検討委員会の結果でございます。

それで、一応庁舎内の検討委員会では、町長の方にこの旨をきちんとお伝えしております。それで町長の方で管理者並びに院長ともお話をしておりますので、そのお話の結果は、町長の方から皆さんにご説明していただきたいと思っております。

○福原委員長 町長。

○石山町長 検討委員会で議論された内容を、今説明させていただきました。検討委員会の方から報告を受けさせていただきました。早速、やっぱり基本はスケジュールどおり、この11月には総務省へのヒヤリングでスタートはしていました。しかし、先ほども申しましたけども、建設資材の高騰等々、社会情勢が変わるといふうなことで、一般会計の方にも影響を及ぼすような状況が出てきたといふうな中で、病院の事務方はいろいろ、道庁の公営企業の担当者とか、次のステップに行くための、総務省に行くための打ち合わせを、協議を続けてきたところであります。

その結果としては、今の現状、収支のバランスをっていう部分については、総務省に行くまでにはもうちょっとかかりますよねっていう、道庁からのアドバイスを受けているところであります。

そのアドバイスを受けた結果で、現状、したらどうやるべきだといふうなことになると、今ちょっと立ち止まって病院の経営分析、更には町の全体の財政的な体力、しっかりとしたものをつかんで、町民の皆さんに説明していくといふうな状況が最良だといふうに判断させていただきました。

それをもって、山本管理者、更には八木田病院長に、こういう現状ですと、次の総務省に橋渡しをしていただくための、今北海道といろいろ協議してます。北海道が整わなければ、総務省へのパスポートはもらえませんかといふうな状況をお話させていただきました。

院長も管理者も充分内容は理解しましたと、時間かかりますけど、町民にきちんと説明できるような体制をつくっていただいて、そして町民の皆さんに説明して、松前町に相応しい病院の建設に向かってほしいといふうなお答えもいただいておりますので、冒頭挨拶の中で今いろんなこと言いましたけど、今立ち止まってみて、しっかりと病院の経営、更には松前の将来の財政設計、今一度見直す時間をいただきたいというのが、冒頭での私の挨拶でありますので、ぜひ内容をご理解していただいて、これからの特別委員会での実のある議論ができればなといふうに思っておりますので、まずはもって北海道と、時間かかると思います。だけど、きちっとした北海道に経営分析などをしていただくなどしながら、クリアしていくと、いろいろな建設が間違いなくたどり着くと思っておりますので、委員会の皆さんのご理解とご協力をお願いをしたいといふうに思っております。

今、立ち止まる、現状をきちんと経営分析するといふところに時間を貸していただければといふうに思いますので、一つよろしくお願い申し上げたいといふうに思います。

○福原委員長 梶谷委員。

○梶谷委員 端的に言うと、計画見直しっていうことですか。そういうふうに受け止めていいですか。だとすればね、この委員会の進め方っての変わりますよ。私はね、こういうスケジュールありますから、それに従って進めるためにはどうしたらいいかっていう発言しました。

けども、中身を聞きますとね、やはりこれからの病院の収支バランスをとるための、もう少し具体的な計画をもって、それからヒヤリング臨むべきじゃないかというんであれば、このスケジュールは全く狂いますよね。だとすれば、このスケジューラー無視して、これからの松前病院のあり方をどうするかという議論になりますよね。そういうふうに受け止めていいんですか。

ちょっと古い話しますがね、道立松前病院が町に移管する時に、明らかに1億円以上の赤字が見込まれるっていう時に、当時の関係者の決断は、町民1万人ですよ、当時はね、ですから年間1万円の医療費を負担して、1億円の町が補てんをするという考え方を持って町移管を受け入れましょうという結論に立って、今日に至ってる。だから、そういうこ

とを考えればね、今の場合は経営だけじゃなくって、経営の赤字補てんじゃなくって、建設が絡んでるんです。これは大変大きな問題です。

ですから、前段で言った町移管の話とは、これあくまでも変わりますけども、だとすれば、今の委員会の取り組みは、もう一回原点に帰って、松前町の病院はどうなるのか、どうしたらいいのかっていう話にせざるを得ないんでないの。どうしますか。

今回のスケジュール進めることが不可能だって言うんであればね、次に進んでどうするかっていう話になるんでしょう。

○福原委員長 暫時休憩致します。

(休憩 午前 11時 14分)

(再開 午前 11時 14分)

○福原委員長 再開致します。

副町長。

○若佐副町長 庁舎内の検討委員会、また町長ともお話をさせていただいて、それで、病院の方も含めてきちんとした経営改善の手法、方法、方法論、また進め方。そしてまた新築の病院の経費の見直しと様々なものに関する今後の取り組み、方針を次回の特別委員会で委員の皆様の方にお示しして、その後、また皆様のご意見をお伺いできればと思っております。

当然、その時には北海道の方のアドバイス等もいただきながら、そして、病院の働いている皆さん、様々な方々の意思統一をしながら、形を見直していく方針を、方向性を皆様にお示ししたいと考えております。そういう資料を次回の時には皆様の方に出したいと思っております。

当然、そうなってくると梶谷委員おっしゃったように、今年度の今あるスケジュールには、とても間に合うようなものではございません。町長もお話したとおり、一度立ち止まって、1年かかるかもしれませんし、その辺のところもあるんですけど、皆様の前にこの方向性をしっかりとお示ししたいというふうに考えております。

○福原委員長 梶谷委員。

○梶谷委員 おっしゃることは良くわかるんですよ、ですからね、私松前病院の持つてる使命って言うかね、そうしたものの中には町民の命と健康を守る、これは基本ですよ。更に新しいドクターを育てるって使命持つてるでしょう。そういうことを考えたらね、町だけの問題じゃなくってね、道あたりも、北海道ね、北海道もそういう観点で松前病院に対する意識を持って、何としても松前病院を続けていくため、これはドクターの教育だとかいろんなことを含めて、地域医療のね、確保っていうことも含めて、道だってもう少し力を貸してもらえってというようなものはないんですか。町長、そういう、今福祉部って言ったっけか、担当、あそこ行ってね、部長とそういう話したことないんですか。やっぱり、そこまで言うべきじゃないの。

町の病院だけじゃないんですよと、北海道全体の医療確保のためにも、松前病院が頑張ってるんだからそういうこと考えたら、前にも言ったことあるよね、医者への補充だって考えたっていいでしょうと。まして、ここにきたら松前病院維持していくためには、松前町だけで対応できないのであれば、北海道もこういうふうに支援しますよってという話持っていくようなことだって、町長政治ですよ、本当に政治ですよ。答弁ください。

○福原委員長 町長。

○石山町長 病院の改築につきましては、毎年北海道保健福祉部、更には札幌医大、更には医師会の方にいろいろ町の、病院の経営状況含めて表敬訪問させていただいて、報告はさせていただいているところであります。医師の募集も含めてであります。

その中では、やっぱりきちんと町の抱える病院、道立病院を移管した病院なわけですから、北海道はその経過充分承知しております、今、梶谷委員正しく言うように、松前病院が北海道から見た場合には、他の病院と違ってすごいポイントの高い病院だというふうな評価はいただいております。そういう中で、今改築に向けていろいろ相談してきてる。先ほども申しましたけども、総務省へ行くための切符がほしいんです。ですから、その切符もらうために、今は事務方一生懸命頑張らせていただいておりますので、何とか次の総務省にいけるような体制づくりをしたいので、ちょっと時間貸していただきたいなというふうに思っています。

政治的っていうふうなことでありますが、松前病院、先ほども申しましたように、北海道からも評価されている病院でありますので、間違いなく支援はしていただけるというふうに、私は認識しておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○福原委員長 齊藤委員。

○齊藤委員 これ、今財政のことを課長に聞こうと思ったんですが、この計画であれば松前町が倒れてしまいますね。病院を建てるために松前町が財政再建団体になるというふうに、私は思ひます。

今まで苦労してくれた白川局長や齊藤次長には、本当にご苦労さんと言ひながら、私は今ここで、松前町で建てる病院は何十億までが限界です。この中でコンサルにかけるとか、そういう方法を考えた方が一番早いと思うんですよ。

だから、今財政にいつても、これ見たっけはっきりしてますね。令和9年でパンクしますよ、このままでいけば。ですから思い切って、今までやってくれた職員に申し訳ないかもしれんけども、この町は、この金額が上限ですという上限を示して、もう一回コンサルにかけるといふくらいの考えを持たなければならない、いふふうに思ひます。このままで出したって北海道も総務省も受け付けません、真っ赤っかですから。ですから、思いきって、今までのことは今までのこととして、上限を示してコンサルにかけると。こういう方向考えられませんか、町長、お願ひします。

○福原委員長 町長。

○石山町長 手法について、お尋ねがございました。今それを、町として一般会計、町全体としてどこまでが負担できる限界かっていうところを、今正しく北海道といろいろ協議してる状況であります。操出基準も新たに発生してくることもあります。ですから、今以上に支援しなければならない部分も出てくるわけでありまして、全体的な仕組みの中で、究極は、何十億っていう数字を出せるように、今準備を進めてるってことでご理解いただきたいと思うんです、こっちの体力がないのにやれるわけでないわけですから。

ですから、病院守って親が潰れるような状況はつくられないと思ひますので、きちんと町をしっかりと守って、松前に相応しい病院のあり方を、もっと、本当にいろんな屁理屈つけてますけど、今立ち止まる勇気が必要だと思ひますので、ぜひ、今提案あったような状況になれるように、いまこれからもう少し北海道といろいろ進めて行きたいと思ひますので、ご理解等をご協力していただければなというふうに思ひます。

○福原委員長 齊藤委員。

○齊藤委員 町長、決断と言ひますかね、これは大事なことだと思うんですよ。だから、今までやってくれた職員には申し訳ないと思ひ間ながら、私はそうあるべきだと思ひてい

ます。

例えば、松前町の病院の、松前町全体で負担できるのは、何十億までですよと、こういうことを示しながら、新しくコンサルにかけると。こういう方法しか私はないと思っています。ぜひそういうことで行動お願いしたいと思いますし、特に、財政のトップやってる副町長には、再三この契約では無理だよ、無理だよと言ってきましたね。だから、あなた方も決断を持ってやらなきゃ駄目だというふうに言ってきました。そういう意味で、町長はそういう思いでいますのでね、副町長、あなたの見解も聞きたいと思います。

○福原委員長 副町長。

○若佐副町長 庁舎内の検討委員会、そして町長ともお話は随分させていただいております。そして、管理者、そして八木田院長ともお話をさせていただいております。全て、この町立病院を守るため、持続させるため、そして、町民のためにこれを継続していくというために、やはり先ほど参考としてこういう考え方とかっていう方法論もあります。今回、病院の新築にあたっては、当初30億台の話から50億台に上がってきたというようなところもございます。やはり町長お話するように、立ち止まって本当により良い、町民の皆さんも安心してそういう病院だったらいいよねって言えるような、そのために示せる、そういう根拠を示せるような取り組みに努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞ、ご理解をいただきたいと思っております。

○福原委員長 齊藤委員。

○齊藤委員 病院の関係者には、あるいは管理者、院長以下のドクターにも、看護師さん方にも、医療技術者にも議会としては何も反発してるわけではなくて、全体が心配して、どんな病院がいいのかっていうことを心配してるんだと。特に院長にはですね、あんた方からも、議会としてはみんな病院のことを心配してくれてますということを、機会あったら伝えてほしいと思います。終わります。

○福原委員長 答弁はよろしいですね。他にありますか。

齋木委員。

○齋木委員 私、昨日の決算から病院の関係かなり質疑とかさせていただいて、やっぱり行きたいとこまで昨日も質問いけなかった経緯があります。やっぱり少し経営に対して、さっき町長、副町長からもしっかり精査していくってお話ありました。それに関して、先ほど齊藤委員からのコンサルって話は建設の方だと思いますけど、行き着く先は経営コンサル入れるとか、そういう話にもなってしまう可能性があると思います。ただ、入れたら人件費のどこに行くと思います、高いですから。

病床の関係、療養型、一般病床、理想の人件費ありますよね。やっぱり収支のところが今しっかり精査できてないってなると、どこが人件費として理想なのかっていうのが、なかなか設定しにくいと思います。なので、しっかり収支のあたり、収入面、しっかりこれから分析していただきたいなと思います。

やっぱりですね、昨日、私ちょっと人件費と言ってしまいました。ちょっと軽率だったなと思うんですね。しっかり、先ほど一番最初に確認とった、一丸となっているということを聞きました。職員の方達も、ドクターも先生達大変頑張ってくれてると思います。メディカルスタッフが今後どのように業務に加算をとるとか、そういうところで貢献できるかっていう業務改善のところ、しっかり考えていただきたいなと思います。

人件費削ると本当大きいことだと思いますので、まず頑張れることは何かってことを、まず考えていただいて、駄目であればコンサルって話になると思いますので、ちょっとそういう案も示していただきたいと思います。よろしくお願ひします。答弁いりま

せん。

○福原委員長 答弁なしということでよろしいですね。他にありませんか。

(「なし」という声あり)

○福原委員長 お諮り致します。

本日の委員会は、これをもって閉会したいと思います。ご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○福原委員長 ご異議なしと認めます。

なお、次回の委員会の開催につきましては、正副委員長にご一任願います。

よって、本日の委員会は、これをもって閉会致します。

どうもご苦勞様でございました。

(閉会 午前11時28分)